

4 救命救急センター



症例数：救命救急センターでの受入総数は外傷など外因疾患が増加し、内因疾患はやや低下傾向にある。一昨年に開設された県立尼崎総合医療センターでは内科医が救急ERの診療を担当していることから内因性の重症患者を多く取っているが、逆に外傷外科医や外傷専門医がいないため外因性疾患は兵庫医科大学病院に流れているとの分析を尼崎及び西宮消防から聞いている（数字dataはない）。また、救急加算を取れない患者が多いと救命救急センター評価が下がることから、28年度は軽症患者を積極的に受け入れることはしない方針として来たことも影響していると思われる。なお、手術センターでの緊急手術の受け入れが出来ない場合はER内の手術室で行っているが、手術件数は58件/26年、79件/27年、104件/28年と年々増加している。

病院前診療：26年度に導入された病院前診療におけるドクターカーの出動件数も最近では50件/月程度と大幅に増加しており、脳卒中センターの開設による近隣病院からの脳血管疾患の受入増加も寄与していると思われる。

熱傷センター：熱傷センター開設による重症熱傷患者の受け入れは年々増加し、28年は25件で受入件数は全国でもトップクラスとなった。最近では神戸以西の病院からの搬入依頼もあり診療圏が広がっている。29年は30件を見越している。熱傷は重症でなく軽症でも、二次医療機関の受け入れがない場合は受け入れをしている。

その他：四肢切断例に対し24時間対応している。重症疾患でない軽症疾病でも、30分以上経過しても搬送受入先が見つからず、複数医療機関の受け入れを断られた事例に関しては、救急隊からの依頼により積極的に受け入れている（兵庫県ルール）。例年のように診療圏7市1町だけでなく、大阪市・池田市・豊中市・吹田市・神戸市・明石市以西の傷病者についても重症患者の受け入れを積極的に行っている。

院内災害訓練：28年度は病院幹部と事務系を中心として、津波災害を想定した机上訓練を行った。

今後の方針：喫緊の問題は救急医の確保である。後期研修プログラムの開始をきっかけに全国的に救急専門医育成プログラムを選択する初期研修修了者が激減している。また、県内の複数の救命救急センターの救急医も退職が相次いでおり、現場では絶望感さえ漂っている。救命救急センターも新たな人材の参入が3名あったものの、総数では2名減少している。今後は兵庫医科大学病院のみというよりは兵庫県行政と協力して県内の救急医獲得と育成を図っていく必要がある。近隣救急施設が不得意である外傷症例が増加していることを鑑みて、救急医、整形外科医、消化器外科医のさらなる確保の必要があり、手術を要する救急患者をさらに受け入れ、内因性・外因性ともに救急加算の取れる重症患者を受け入れていく予定である。病院前診療（ドクターカー等）は広域からの患者の集約化にも有効であるので継続し、各消防にその有用性を啓発・普及していくが、救急救命士が4名から2名に減じ、システムの維持が難しい状況である。

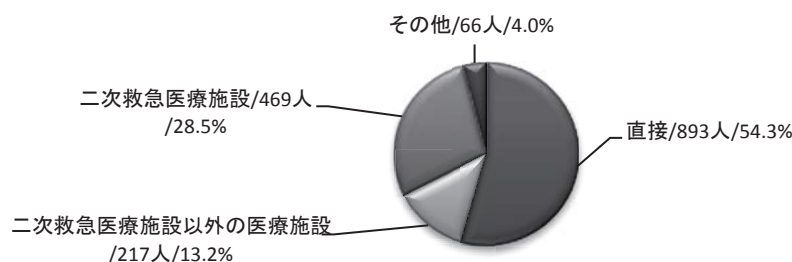
4-1 月別入院患者状況

(人)

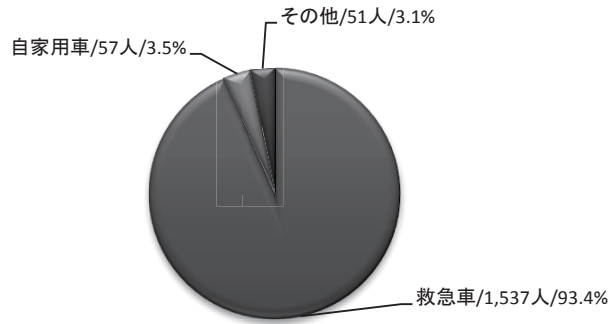
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
診療日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
E I C U	新入室	136	118	102	114	113	98	110	103	110	114	97	90	1,305
	転入	8	13	7	8	11	11	12	10	17	8	16	7	128
	退院	22	20	22	21	19	19	18	23	18	26	32	21	261
	転出	121	110	91	101	100	96	98	93	106	97	83	77	1,173
	延在室	416	466	427	424	413	404	410	405	503	491	419	411	5,189
	一日平均	13.9	15.0	14.2	13.7	13.3	13.5	13.2	13.5	16.2	15.8	15.0	13.3	14.2
	利用率(%)	69.3	75.2	71.2	68.4	66.6	67.3	66.1	67.5	81.1	79.2	74.8	66.3	71.1
20床	稼働率(%)	93.2	96.1	90.0	88.1	85.8	86.5	84.8	86.8	101.1	99.0	95.4	82.1	90.7
	新入室	34	32	31	24	30	27	26	12	23	35	28	34	336
	転入	73	60	55	63	58	55	49	47	43	60	41	40	644
	退院	60	42	40	48	50	50	29	36	36	38	29	33	491
	転出	44	53	45	40	35	39	39	26	34	47	42	41	485
	延在室	551	574	450	564	559	528	546	586	532	579	569	545	6,583
	一日平均	18.4	18.5	15.0	18.2	18.0	17.6	17.6	19.5	17.2	18.7	20.3	17.6	18.0
24床	利用率(%)	76.5	77.2	62.5	75.8	75.1	73.3	73.4	81.4	71.5	77.8	84.7	73.3	75.1
	稼働率(%)	91.0	89.9	74.3	87.6	86.6	85.7	82.5	90.0	80.9	89.2	95.2	83.2	86.3
	稼働率(%)	91.0	89.9	74.3	87.6	86.6	85.7	82.5	90.0	80.9	89.2	95.2	83.2	86.3

利用率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数}}{\text{実働延病床数}}$	稼働率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数} + \text{退院(室)転出患者数}}{\text{実働延病床数}}$
--	--

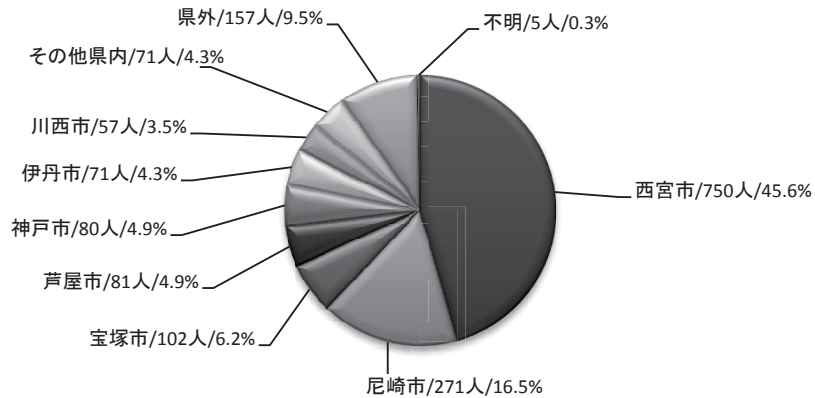
4-2 28年度来院方法別受入患者数の構成比率(合計1,645人)



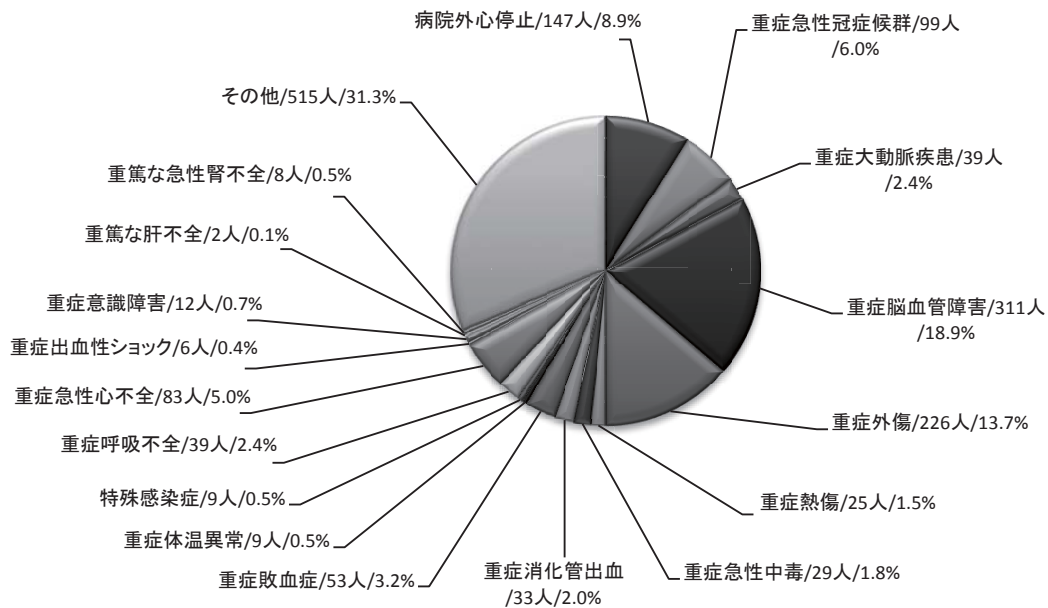
4-3 28年度搬入方法別患者数の構成比率(合計1,645人)



4-4 28年度住所地別患者数の構成比率(合計1,645人)



4-5 28年度主要傷病別患者数の構成比率(合計1,645人)



4-6 28年度年齢別患者数の構成比率(合計1,645人)

